

キーワード：小中連携・地域とのつながりを大切にした防災教育

I 研究について

1 防災教育に関する学校の課題

- (1) 本学区は自然災害がほとんどなく、防災に対する意識が低い。地域の現状と児童生徒の実態に見合った防災教育を実施していく必要がある。
- (2) 荒海地域は、小・中学校の連携や地域とのつながりがしっかりしている。防災への意識を高めるために、小中連携をさらに深め、発達段階を考慮した教育を進めていくことが大切である。
- (3) 全ての教職員が防災教育への意識を高め、指導の充実が図られるよう、地域や関係機関との連携を図りながら、指導の重点を明確にしたり、指導資料の整理を進めたりする必要がある。

2 取組の方向性

長年取り組んできた荒海地域小・中学校の連携活動を基盤として、地域資源（人材や組織）を積極的に活用し、「防災意識を持つ児童生徒」として地域のために行動できる人材の育成を目指す。

3 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時期	実施内容
4月12日	<小・中> こども避難の家あいさつ
4月28日	< 小 > 少年消防クラブ：春の検閲式参加
5月23日	< 中 > 防災教育出前講座
5月30日	<小・中> 小・中職員での情報交換会
6月21日	<小・中連携> 講話「地域の災害史を学ぶ」
8月30日	<小・中> 講話「震災避難者を取材して」
9月10日	< 小 > 防災教育出前講座
9月12日	< 小 > 講話「南会津の自然災害・町のハザードマップ」
9月17日	< 中 > 見学体験 3年修学旅行「防災体験学習（そなエリア東京）」
10月 2日	< 中 > 講話・演習「避難所（特に福祉避難所）と災害ボランティア」
10月26日	< 小 > 元気っ子発表会
10月29日	<小・中> 授業公開・講演会（荒海中学校）
11月 7日	<小・中> 小中合同ボランティア清掃活動
11月17日	放射線・防災教育地区別研究協議会

II 研究の実際について

1 小中連携での主な取組

(1) 児童生徒と地域の方による危険箇所・避難場所の確認（こども避難の家あいさつ）



【小中学生いっしょにあいさつ（個人宅）】

4月12日、小中学生と一緒に、1年間お世話になる避難の家や通学路の危険箇所の確認を行った。荒海地域では、各通学路沿いに「こども避難の家」の指定を受けた家屋（個人宅・事業所）が98カ所あり、児童生徒は緊急時にはいつでも逃げ込めるようになっている。

この日は、荒海地域の各地区ごとに、通学路のボランティア清掃をしながら、一カ所一カ所、あいさつをして回った。この活動は、



【公的施設（駅施設）】



【個人事業所（コンビニ）】

児童生徒だけでなく、小中PTAや各地区行政長、地区防犯協会、地区交通安全協会などの協力を得ながら実施している。

(2) 児童生徒による避難場所に指定されている集会所の清掃活動（ボランティア活動）



【集会所（避難所）の清掃】



【小中合同で計画立案】

11月7日、「小中合同ボランティア清掃活動」を実施した。これは、小中連携の一環として毎年行っている活動である。児童生徒は、小学校で打合せを行った後、自分たちの居住する地区へ移動し、地区集会所（公民館）の清掃活動を行った。

特に、本年度は、荒海小・中学校が重点的に取り組んできた防災教育のまとめの意味もあり、災害発生時に地域の「避難所」となることを意識して活動するようにした。

(3) 児童生徒合同による防災講話の受講（小学5年生・中学生）

①「地域災害史」について 講師：奥会津博物館 奥会津文化財等研究員 渡部 康人 様



【スライドによる貴重な資料の紹介】



【講師の渡部康人先生】



【小中学生合同の受講】

6月21日、奥会津博物館の渡部康人先生を招聘し、南会津地域の災害史について学んだ。古文書から読み取れる災害状況や、渡部先生自らが聞き取りをしてきた被災者の体験談の紹介など、盛りだくさんの内容となった。

最後に、渡部先生から「災害が起きたとき、どのように命を守り、地域にどう関わったらよいのか考えてみましょう。」との問いかけがあり、今年一年間の防災教育を学ぶ視点を示していただいた。

②「南会津と東日本大震災」について（小学6年生・中学2年生）

講師：たじまケーブルテレビジョン 阿部 徳子 様



【取材の感想を聞く】



【講師の阿部徳子先生】

8月30日、CATVで東日本大震災発生時に取材した南会津町内の状況や支援活動、避難してきた人たちの取材映像などをもとに、阿部先生が思ったことや感じたことを話していただいた。東日本大震災は、南会津とはあまり関係がないと思っていた生徒児童にとって、改めて知ることがたくさんあった。最後に、阿部先生から「(震災を教訓に) 自分のできることを考えてください」との問いかけがあり、児童生徒一人一人が深く考えさせられた時間となった。

2 中学校での主な取組

(1) 南会津建設事務所 防災教育出前講座（全学年）



【模型を用いた説明】

5月23日、福島県南会津建設事務所の担当者と砂防ボランティアの方々を招聘し、「防災教育出前講座」を開催した。

南会津で発生した水災害や土砂災害の実例をもとに、災害発生時の地形の特徴や身を守る方法を学んだ。また、ハザードマップを見ながら危険箇所の確認も行った。災害時の「自助・共助・公助」の考え方は、今後の防災学習を深めていくヒントとなるものであった。

(2) 「避難所（特に福祉避難所）と災害ボランティア」について（中学3年生）

講師：南会津町社会福祉協議会職員 様



【体験的な活動で避難所設営を理解する】



【簡易担架による体験】

10月2日、避難所生活の実態や福祉避難所へ避難する場合の手続き、また、災害ボランティア活動の内容や参加手続き、心構えなどについて学んだ。講話のまとめの「『助けてください』と言合える地域の絆をつくりましょう。」「一番大切なのは『自分の命』を守ること。自分の命を守れなければ、『他人の命』は守れない。」という言葉がとても印象的だった。

(3) 修学旅行（3年）「防災体験学習（そなエリア東京）」の体験見学



【防災学習を意識した修学旅行】

9月10日、修学旅行のコースの中に、防災学習を意識した施設見学を入れた。

首都直下地震の発生から避難までの想定学習で、タブレット端末を用い、クイズに答えながら生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習や、地震発生時に国の拠点となる「緊急災害現地対策本部」が設置されるオペレーションルームなどを見学した。

生徒たちは、想定学習を通して、地震に備える防災の大切さ、地震が起きたときの自助・共助の大切さを知ることができた。

3 小学校の主な取組 <5年 総合的な学習の時間>

(1)「南会津の自然災害・町のハザードマップについて」 講師：南会津町役場住民生活課 様



【南会津町の過去の災害】



【ハザードマップを活用した自宅の確認】

9月12日、南会津町の過去の災害やハザードマップについて学んだ。自分たちの身の回りで災害が発生していることや町のハザードマップの見方、近くの避難所について教えていただいた。また、ハザードマップ上で自分の家を確認し、自然災害が自分の回りにも起こりうることを、そして、日頃から防災に対する意識を高めていくことの大切さに気付くことができた。

(2) 調べ学習 防災食づくり体験



【防災食づくり体験】

災害に備えるという視点から、防災食づくりに挑戦した。今回、5年生が作ったのは「サバの卵焼き」「和風スープ」「長芋パンケーキ」「ハイゼックス炊飯」「ポリ袋炊飯」。避難所では限られた材料、少ない調理器具で簡単に作ることが求められる。避難所で温かい食事が摂れることはありがたいことであり、「災害時に備える」という視点でまた一つ学ぶことができた。

(3) 南房総市への「お手紙」作成・送付

南会津町では、5年生が千葉県南房総市の民宿で宿泊学習を行っている。そこでお世話になった方々が台風15号で被害を受けたことを知り、「自分たちにできることはないか」と児童が自発的に考え、お見舞いの手紙を送ることにした。後日、心を込めて書いた手紙を郵送した。

防災教育で学んだことを生かし、実際に「気づき」「考え」「行動する」ことができた。



【宿泊学習での体験学習】



【宿泊学習で見つけた防災マップ】

(4) 「元気っ子発表会」での発信

防災に意識を向けるようになると、今まで行ってきた『避難訓練』や『避難の家あいさつ』『ボランティア活動』などがすべて防災につながっていることが理解できました。また、いろいろな人の話を聞き、体験を通して学ぶことにより、一人一人が意識を高めることもできました。私たちが学んだことや考えたことを他の学年の人や保護者、地域の方にも伝えることが大切だと思ったため、元気っ子発表会で劇やクイズにして発表しました。劇の最後では、以下のようにまとめ、みんなで呼びかけました。



【学んだことをクイズにして発表】

私たちの発表はいかがでしたか。

私たちはこれまでいろいろな講話を聞いたり、出前講座を受けたり、自分たちで実習したりしながら防災について学んできました。

台風19号では福島県も大変な被害を受けました。私たちが住んでいる荒海でも、遠い昔であれば大火があり、近年であれば水害などがありました。いつ、どこで、災害に巻き込まれるか分かりません。その時に、自分の命を守ることができ



【宿泊学習での体験学習】

るように、そして、最善の行動ができるように、災害について知り、防災を学び、対策をすることの大切さを学びました。また、危険を予知する能力や他者へ配慮する心など、日頃の学校生活や家庭生活の中での大切なことにも気付くことができました。家族や友達、そして自分自身を守るために、これからも防災の意識を高めていきたいと思います。

4 小中連携授業公開・講演会 (別頁参考資料参照)

10月29日、荒海中学校を会場に「荒海地区小中連携授業公開・講演会」を開催しました。

(1) 中学3年社会科授業 「歴史的分野：歴史の中の大震災」

授業者：関口 功、ゲストティーチャー (GT)：塩生浩明 様 (南会津町消防団師団分団長)

①本時の目標

過去の日本の災害(震災)の歴史を知るとともに、災害時における判断力を養い、地域住民としての防災意識を高めることができる。

②授業の実際

	学習活動・内容	授業の実際 (○：取組概要、□：生徒反応)
導入	<p>1 修学旅行時の「そなエリア」での活動を振り返る。</p> <p>2 日本の大災害の歴史を知る。 (1)主な災害の概要と被害状況 (2)近年に発生した大震災の概要 ① 関東大震災 ② 阪神・淡路大震災 ③ 東日本大震災</p>	 <p>○ 写真・動画・古文書をスクリーンに提示し、日本の大災害を概観させ、身近な自己との関わりを意識させた。</p>
展開	<p>3 課題把握</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">災害時の適切な対応と、地域との関わりについて考えよう。</p> <p>4 災害時の対応について考える。 (1)避難所での対応(想定学習) ① 個別 ② グループ ③ 発表</p> <p>5 消防団の方の話を聞く。 (1)どのような思いで地域災害と関わってきたか。 (2)災害時の心構えと対応方法 等 (3)質疑</p>	 <p>○ 避難所で起こりうる想定場面を提示し、自己の取るべき行動について話し合いを深めた。 【想定学習】</p> <p>□ 生徒たちは、共感を持って自己の行動を考えることができた。</p>
まとめ	<p>6 本時の学習のまとめをする。 (1)災害時における対応方法の確認 (2)自己評価カードへの記入</p>	 <p>○ GTからは、「地域防災について」「消防団活動と共助について」「防災の視点から中学生に伝えたいこと」の話を聞いた。</p> <p>□ 本校卒業生でもあるGTの話を真剣に聞くことができた。</p> <p>□ GTからの具体的な行動(あいさつの大切さ)についての説話は、防災と地域づくりの重要性に気が付ききっかけとなった。</p>

(2) 講演会の様子

演題「荒海中学校と自然災害」

～自分たちの大地を知ることが、自分たちを守ることにつながる～

講師：磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公 様

<講演内容>

- 1 地震とは
 - ① 地震が起こる仕組み
 - ② 東北地方太平洋沖地震
- 2 気象災害
- 3 南会津町の大地のつくり
 - ① 地形と地質
 - ② 気象
 - ③ 過去の自然災害
- 4 火山の仕組みと災害
 - ① 噴火のしくみ
 - ② 様々な噴火現象
 - ③ 磐梯山
 - ④ 那須岳
- 5 土砂災害
- 6 災害から命を守るために
 - ① 防災マップの見方
 - ② 磐梯山ジオパーク
 - ③ 自分たちの地元の大地を学ぶ

※ 講演会に先立ち、荒海小学校白井校長より実践概要説明を行った。

※ 実験を多用し、目で変化を確認することができたので、生徒達の反応も良かった。

南会津の地形・地質に焦点をあて、大地が起こす自然災害について、解説のみならず、実験なども通して、分かりやすく説明していただいた。



【佐藤 公 館長】



【白井校長による概要説明】



【地質の変化を理解するための実験】



【佐藤館長の話聞き入る生徒たち】

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 既存の活動や組織を活用し、そこに新たな取組を加えながら「防災教育」を行ってきた。一年間を通して効果的な実践を重ねていくことができた。
- 「災害は自分たちの身近に起こりにくい」と思っていた児童生徒の考えが変わってきた。防災に対する意識を高めることができた。
- 地域人材・組織の積極的な活用を図ったことにより、次のような成果が出ている。
 - ・ 児童生徒に「防災は身近なことであり、自分たちのこと」という意識を持たせることに効果的だった。
 - ・ 「地域の一員」という意識がこれまでよりも高まった。
 - ・ 学校にとっては、「開かれた学校づくり」の具現化、地域人材・組織にとっては学校教育活動に対する協力のしやすさを理解していただくことができた。
- 学習してきたことが、「行動」として表れてきている。
 - ・ 避難所になる集会所の清掃に今まで以上に積極的に取り組む姿が見られた。
 - ・ 児童からの提案により、台風15号で被災した民宿の方へ励ましの手紙を送付した。
- 防災教育を通して、第一義的に「自己の生命を守ること」、次いで「地域の一員としての自覚をすること」について理解することができた。さらに、南会津（荒海）地域に根ざした防災教育の推進の目的のひとつは「地域づくり・地域再生」であることに改めて気付くことができた。

2 課題

- 小・中9か年を通して、どのような力を育てていくかを明確にして防災教育を行う必要がある。例えば、中学生にとって必要な力の一つに「想定力・想像力」がある。めざす児童・生徒像や取組の方向性を踏まえ、小・中を通して系統立てて取り組み、より深い連携を図っていきたい。
- 防災教育のみならず、地域と連携した教育活動を推進していくためには、校内の「地域学校協働推進委員会」「地域連携担当教職員」の一層の充実・活性化が必要である。

「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」防災教育実践協力校
荒海地区小中連携授業公開・講演会

荒海小学校と荒海中学校は、福島県教育委員会より実践協力校としての指定を受け、小中連携のもと、地域資源（人材や組織）を積極的に活用し、防災に対する意識を高め、地域のために行動できる人材の育成を目指し取り組んでいます。

■■ 日程 ■■

13:10	13:20	14:10	14:25	14:35	16:05
受付	公開授業 (2階ななもりホール)	移動	実践経過説明 (体育館)	講演会 (体育館)	

- (1) 公開授業（3年社会科） 13:20～14:10 場所：ななもりホール
 ■内容：災害時における中学生としての行動のあり方を、想定学習やゲストティーチャーの話を聞いて考える。
 ■授業者：社会科担当 関口 功
 ■ゲストティーチャー：南会津町消防団第1師団第3分団分団長 塩生浩明 様
- (2) 実践経過説明 14:25～14:35 場所：体育館
 ■内容：実践の意図・取組内容についての説明
 ■報告者：南会津町立荒海小学校長 白井秀行
- (3) 講演会 14:35～16:05 場所：体育館
 ■演題：「荒海中学校と自然災害
 ～自分たちの大地を知ることは、自分たちを守ることにつながる～」
 ■講師：磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公^{ひろし} 様

■■ 実践経過説明・講演会順序 ■■

進行：中学校研修主任
○実践経過説明（小学校長）
一、開会の言葉
二、講師紹介（中学校長）
三、講演
四、質問
五、御礼の言葉（小学校長）
六、閉会の言葉
○生徒退出・諸連絡（中学校長）

3 学年 社会科（防災教育）指導案

期 日：令和元年10月29日（火） 第5校時
 場 所：ななもりホール
 授業者：関口 功

1 題材名 歴史の中の大災害

2 題材設定の理由

(1) 教材観

本時は、社会科歴史分野の発展学習にあたり、歴史を単に知識として学ぶのではなく、習得内容を踏まえ、よりよい社会や自己の在り方について考えさせる題材である。自然災害から逃れられない日本人が、歴史の中で災害から幾度も復興してきたことを学び、災害に対してどのような準備をし、対応していったらよいのかを、想定学習による協同的な活動や、ゲストティーチャーの体験などから考えさせたい。

(2) 生徒観

生徒数男子13名、女子6名、計19名の学級である。普段の授業の様子から、全体的に思考力・判断力は高いと言えるが、発言する生徒に偏りがみられる。

生徒たちはこれまで、災害や防災に関する授業を受けたり、「そなエリア東京」を訪問し、地震体験や災害時に必要な物品について学んだりしてきてはいる。しかし、自分が居住する地域の災害と自己の行動について結びつけて考えることは、少ないと思われる。

(3) 指導観

本校では、本年度、防災について下記の計画に基づいて指導を行ってきた。本時では、これまで学んだ防災についての知識を基に、災害時の避難所での行動について考え・話し合う場を設定し、災害時の対応についての意識付けを図りたい。また、災害について画像や映像資料を用い、臨場感を高め生徒の興味・関心を高めるとともに、地域の消防団の方から講話をいただき、災害から地域を守ってきた人々の思いを知り、地域の中で自分ができることについて考えさせたい。

3 本校の防災教育指導計画

月 日 (曜)	実践内容
(1) 4/12 (金)	○ こども避難の家あいさつ (全学年)
(2) 5/23 (木)	○ 防災教育出前講座 (全学年) ・南会津建設事務所の方による講話 (土砂災害・ハザードマップについて)
(3) 6/21 (金)	○ 地域の防災史を学ぶ (全学年) ・奥会津民俗博物館研究員の方による講話
(4) 8/30 (金)	○ 震災避難者取材して (2学年) ・たじまケーブルテレビの方による講話
(5) 9/10 (火)	○ 防災学習施設「そなエリア東京」訪問 (3学年)
(6) 10/ 2 (水)	○ 避難所設置の注意点とボランティアの心構え (3学年) ・南会津社会福祉協議会の方による講話・演習
(7) 10/29 (水)	○ 公開授業 ・・・・・・・・・・ 本時
	○ 磐梯山噴火記念館館長による講話
(8) 11/ 7 (木)	○ ボランティア活動 (全学年) ・避難場所の清掃

参考資料3 公開授業指導案②

4 本時のねらい

過去の日本の災害（震災）の歴史を知るとともに、災害時における判断力を養い、地域住民としての防災意識を高めることができる。

5 指導過程

	学習活動・内容	時間・形態	指導のポイント
導 入	1 修学旅行時の「そなエリア」での活動を振り返る。	5分 (一斉)	(◎手立て ◇評価) ◎修学旅行時の画像を提示し、関心を高める。
	2 日本の大災害の歴史を知る。 (1)主な災害の概要と被害状況 (2)近年に発生した大震災の概要 ① 関東大震災 ② 阪神・淡路大震災 ③ 東日本大震災	10分 (一斉)	◎年表を用い、古代から現代まで多くの災害が起こっていることに気づかせる。 ◎画像や映像を用いその概要をつかませる。 ◎荒海地区で起こりやすい災害を想起させる。
展 開	3 課題把握		
	災害時の適切な対応と、地域との関わりについて考えよう。		
ま と め	4 災害時の対応について考える。 (1)避難所での対応（想定学習） ① 個別 ② グループ ③ 発表	20分 (個人) (グループ) (一斉)	◎避難所での想定場面を提示し、自己の行動について、考え・話し合わせる。 ◎自助・公助・共助の考え方について説明する。 ◎10/2の避難所についての講話を想起させる。 ◇積極的に話し合いに参加しているか。(観察)
	5 消防団の方の話を聞く。 (1)どのような思いで地域災害と関わってきたか。 (2)災害時の心構えと対応方法 等 (3)質疑	10分 (一斉)	◎消防団の方の経験をもとに話をし ていただく。
ま と め	6 本時の学習のまとめをする。 (1)災害時における対応方法の確認 (2)自己評価カードへの記入	5分 (一斉) (個人)	◇災害時の心構えや対応法を理解し、防災意識を高めることができたか。(自己評価カード)

6 板書計画

課題 災害時の適切な対応と地域との関わりについて考えよう

◎ 歴史の中の大震災
年表

◎ 避難所での対応
想定場面


◎ 災害時の3つの対応主体
自助…
公助…
共助…

◎ まとめ

7 想定場面

いろいろな世代の立場になって
考えてみよう！①


Aちゃん
家が倒れて、避難所暮らし。
両親は片付けなどで忙しそう。
Aちゃん(小学1年生)は
一人でつまらなそうにしています。



もしAちゃんの立場だったら
どんな気持ちになるでしょうか？①

いろいろな世代の立場になって
考えてみよう！②


Bさん夫妻
日々の仕事に忙しく、なかなか避難所の人
とコミュニケーションが取れていません。
今後の生活にも不安を抱えています。



もしBさん夫妻の立場だったら
どんな気持ちになるでしょうか？②

いろいろな世代の立場になって
考えてみよう！③

Cさん
一人暮らしのお年寄り。
避難所でも一人であることが多く、
寂しそうにしています。



もしCさんの立場だったら
どんな気持ちになるでしょうか？③